



2024年3月25日

各位

会社名 株式会社RS Technologies
代表者名 代表取締役社長 方 永義
コード番号 3445 東証プライム市場
問合せ先 経営企画室長 田渕 勝也
電話 03-5709-7685

2023年12月期 決算説明会 質疑応答集（2）

この質疑応答集は、2024年2月27日に開催したアナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。投資家の皆様により当社をご理解いただけるよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1：2024年中期経営計画達成の確度を教えてください。（決算説明資料P21）

A1：2024年～2026年の中期経営計画は、当社として非常にチャレンジングな計画といたしました。2024年後半から半導体市況環境が回復することを見込んでおり、その際にお客様の需要にしっかりと対応できるよう投資計画を実行することで中期経営計画を達成できるものと考えております。

Q2：2024年に行う設備投資の効果はいつから反映される予定ですか。（決算説明資料P24、25）

A2：再生ウェーハ事業、プライムウェーハ事業ともに2024年下期頃から反映される見込みです。

Q3：アップサイドプランを発表した背景を教えてください。（決算説明資料P22、23）

A3：これまで発表してまいりました中期経営計画以上に、当社の成長性をご理解いただきたく、ベースプランに加えアップサイドプラン（目標値）を発表いたしました。コロナによる特需も影響し、2022年は3年分の計画を1年で達成いたしました。2024年～2026年の計画では、さらなる飛躍のため、今後の成長ドライバーとなる再生可能エネルギー事業（以下、LEシステム）及びM&Aによる規模拡大を計画いたしました。

Q 4 : プライムウェーハ事業における8インチ、12インチの投資に関する考えを教えてください。
(決算説明資料P26)

A 4 : 当社の8インチが主に使用されるパワー半導体市況は、2024年後半から回復基調となると見込んでおります。そのタイミングに合わせて、8インチの生産能力を向上させられるよう投資を計画しております。12インチは、まだ量産には至っておりませんが、持ち分適用会社であるSGRSにて技術力向上に取り組んでおります。数年以内に中国国内での半導体製造が活況になると見ており、その際に高品質の12インチウェーハを量産、販売するための投資計画を立てております。

Q 5 : 2024年の減価償却費について教えてください。

A 5 : 2023年の減価償却費は37.5億円程でした。2024年は、追加の設備投資を含めまして約42億円を想定しております。

Q 6 : アップサイドプランでM&Aによる増収を発表されていますが、M&Aはどのような企業を想定していますか？ (決算説明資料P22)

A 6 : 当社の既存事業とシナジーのある半導体関連事業等を考えております。加えて、当社が創業時から事業におけるキーワードとしている「再生」のフィロソフィーが合致する事業も対象としております。

Q 7 : 再生可能エネルギー事業 (LEシステム) に参入した背景をご説明ください。 (決算説明資料P30)

A 7 : 官民ファンドである株式会社INCJからご紹介いただき、旧LEシステムの行っていたバナジウムレドックスフロー電池 (VRFB) の電解液製造事業の市場や技術性の評価を行いました。その結果、高い成長性があると見込み事業承継を決定いたしました。また、再生可能エネルギー分野は、当社企業理念の「地球環境を大切に、世界の人々に信頼され、常に創造し挑戦する」の指針及び創業期から大切にしている「再生」のキーワードに合致いたしました。

※レドックスフロー電池…二次電池の一種で、イオンの酸化還元反応を溶液のポンプ循環によって進行させて充電と放電を行う電池のことです。現在商業用途として実用化されているのはバナジウム電池のみで、安全かつ、長寿命で大型化に有利な特徴があるため主に大規模・大容量の定置式蓄電池として活用されています。

Q 8 : LEシステムの強みを教えてください。 (決算説明資料P30)

A 8 : 蓄電池の中でも、安全かつ長寿命で、大規模・長時間蓄電が容易といった特徴を持つVRFBは、電解液にバナジウムを用いるため、市場でのバナジウム調達の場合、「高価」「受給変動要因が多い」という課題がございます。その課題を解消するために当事業では、バナジウムを石油コークス燃焼煤から回収する技術研究を行い、実証実験も完了いたしました。(保有特許10件以上)

特に北米や中国ではこの技術を活用できるチャンスが多く存在することから、グローバルに強みを持つ当社では、市場シェアを獲得することができると見込んでおります。

Q 9 : L Eシステムの営業先はどのようなところですか？（決算説明資料P33）

A 9 : 営業先は、工場などの大規模電力を使用する拠点を持つ国内外の事業会社や電力会社、地方自治体等でございます。

Q10 : L Eシステムの利益貢献はいつからですか？

Q10 : 2025年以降を想定しております。

<ご参考資料>

2023年12月期 決算説明資料

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02916/df4eca4f/4aaa/4675/bb80/568e33930d20/140120240213535037.pdf>

2023年12月期 決算説明会動画（質疑応答なし）

https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=rs-tec_202402_bW2e

2023年12月期 決算説明会動画書き起こし

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02916/6e2847d5/b528/415f/ac09/b8cc2ad0e674/140120240305548734.pdf>

以上